



津奈木中  
学校便り  
No. 10

# 夢実現・挑戦

令和6年2月5日  
津奈木町立津奈木中学校  
校長 高橋 裕二

## 「いい習慣」が自分を助けてくれる!!

新年早々に石川県能登半島地震、日航機と海保機の衝突と、大きな災害と大きな事故が発生しました。被害に遭われた方に、心からお見舞いを申し上げたいと思います。

1月7日には、熊日三太郎駅伝があり、本校から6名の生徒が走り、Aチーム単独で惜しくも2位という結果でした。補員の選手も含め、よく頑張りました。



【三太郎駅伝 3年林君】

さて、始業式では、本校の学校教育目標「夢実現に挑戦する活力のある生徒」を達成するために、体力をつける、人間性を高める、学力をつけるの3つのことを話しました。

1月を振り返ってみると、体調を崩し、欠席や遅刻、早退、保健室利用が多く見られました。冬休み、夜遅くまで情報通信機器を使用し、生活習慣が乱れた生徒もいるようです。毎日、元気に過ごすためには、体力が必要です。体力は、食べることと眠ることが基本になります。

12年前、ノーベル文学賞受賞者で、昨年3月にお亡くなりになった大江健三郎さんの講演会に参加する機会がありました。大江さんは、「『いい習慣』は困難を乗り越えていくことができる。勉強する習慣は一生の習慣であり、子どもの頃身に付けた習慣はとても大切である。困難に出会ったとき、習慣が自分を助けてくれる」と語られました。

本校では、健康面や学力面で2極化が進んでいると感じています。原因の一つに、生徒の習慣の違いが大きいように思います。望ましい食習慣や、規則正しい生活習慣などが大切になります。



【久村昌司さんと門松づくり】

「習慣は第二の性格である」という言葉があります。どのような習慣を身に付けているかでその人が評価されます。社会に出るまでに、笑顔で挨拶、5分前行動などの「いい習慣」を多く身に付け、困難を乗り越えてください。

## いじめはしない、いじめは許さない!!

毎年12月県教育委員会は、県内すべての学校で「心のアンケート」を実施し、いじめの状況の把握を行っています。本校では、いじめの定義をもとにいじめを積極的に認知し、早期対応・早期解決を図っています。今年度は、1月末までに13件をいじめとして認知して対応しました。

さて、「心のアンケート」では、いじめだけでなく、学校や家庭の様々な事項を質問しています。次表は、主な質問事項で、「ある」「まあまあある」「あまりない」「ない」の4つのうち、「ある」と回答した全校生徒の割合です。



【1年 大根樽出し】

### 【質問事項】

※「ある」と回答

①学校は楽しい	39%
②誰かの役に立っている	27%
③授業がよくわかる	25%
④自信のあることや自慢できるものがある	48%
⑤クラスにいじめを許さない雰囲気はあるか	24%
⑥相手が嫌がることを言ったりしたりした	30%
⑦平日、情報通信機器の使用1日2時間以上	33%

- ①～④の「ある」に「まあまあある」を加えた肯定的な回答は、90%前後である。
- ⑤の肯定的な回答は60%であり、いじめを許さない学級集団づくりに力を入れる必要がある。
- 「いじめられたことがある」と回答した生徒はいたが、「いじめは続いていない」と回答していた。
- 情報通信機器使用は、生徒会で「平日1日1時間以下、午後10時以降は使用しない」と決めているが、1時間以下の生徒は26%である。

先日、正門で通りかかった車に挨拶したら、「先生、もしかして校長先生になったんね」と声をかけられ、顔を見たら30代の頃に担任した生徒でした。思い出すのは、彼が中学3年の時、受験書類が未提出だったため、学校から電話して厳しく叱り、怒って電話を切りました。彼からすぐに電話があり、「先生、そんなに興奮しないでください」と言われました。今となっては笑い話ですが、電話で生徒を叱ったのは、彼が最初で最後です。

始業式では、学力向上のために宿題や問題集等を必ず提出すること、そして、社会では約束と期限を守ることが信頼につながることも話しました。